

情報連絡員報告総括表(令和6年9月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食 料 品	醤油・味噌業 製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	↖	→	→	→	↖	↖	→	↖	↖	・原材料価格の値上がりが止まらない。 ・まだ気温が高いため売上が思うように伸びない。 ・税金等の支払いに苦慮している。
	豆腐製造業	↖	→	↗	→	↖	↖	→	→	↖	・売上が伸びず、収益も悪化し、金融機関からの融資が受けられない事業者も出てきているため、資金繰りは苦しい状況となっている。 ・原料の仕入先や配送の見直しをしたり、製造方法を工夫するなどして、商品のコストダウンに努めている。
織 繊 工 業	ニット製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	・人材確保が継続的な課題である。 ・受注について、自動車関連は若干出てきたところではあるが、全体的には低調で先行きは不透明である。 ・織維業界は引き続き厳しい状況にある。
	絹人織織物業 製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・化合繊織物並びに絹織物共に状況は前月と変わっていない。 ・物価高騰が続いているため、生活必需品以外の商品の需要が減退している。 ・定番品の価格の値上げを得意先に要請中で、秋の実需期に入るが、商品を値上げすることで数量と売上の減少を危惧している。 ・売上の増加も大幅に見込めず、賃金の上昇と経費の増大もあり、収益の悪化が予想される。
	綿・スフ織物業	↖	→	→	→	↖	→	↖	→	↘	・受注はやや低調、コストは益々上昇しているため、収益の悪化傾向は止まらない。
木 材・木 製 品	一般製材業	↖	↖	→	↖	↖	→	↖	→	↘	・県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.1%減と3ヵ月連続のマイナスとなり、全国新設住宅着工戸数の5.1%減と比べても低く、非常に厳しい現状である。特に木材が使われる割合が大きい持家住宅については、33ヵ月連続で前年同月と比べて減少し不振が継続している。 ・更に、住戸の平屋・小型化が進んでいるため、床面積の縮小も顕著となり、木材利用量も減少している。 ・ロシア材取扱木材関連事業者は、ロシア国内の物流の混乱で生産が低下しているため、停滞感が強く、先行き不透明で先が読めない状況が続いている。また、日本国内の住宅需要の不振や回復が見込めないこと、更に厳しい状況にある。
	その他の木製品 製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印 刷	印 刷 業	↖ → ↗ → ↘ → ↙ → ↚ →	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、明るい材料は見当たらない。 ・価格の適正化、そのための業界の協調、生産性の向上は必須である。 ・限られた市場の中で縮小する需要に適応できる 方策として、地域の課題解決に繋がるビジネスや新しい市場の創出が不可欠である。 ・モノからコトへのサービスに変革し、新しい価値を生み出しながら、共に歩む協創型業界を目指さなければならぬ。
化 学 ・ ゴ ム	医薬品製造業	→ → → → → → → → →	<ul style="list-style-type: none"> ・地震に加え豪雨災害もあり、能登地域を廻商する配置販売業者の中には、珠洲市や輪島市の得意先の7割以上を無くした業者もいる。
窯業・土石製品	生コンクリート 製 造 業	→ → → → → → → → →	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比で91.0%となっている。 ・4月からの累積出荷量は、県全体では前年比88.7%であり、4月からほぼ同水準で推移している。
	コンクリート製品 製 造 業	↖ → ↗ → ↘ → ↙ ↘ ↙	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	骨材・石工品等 製 造 業	→ → ↗ → → → → → →	<ul style="list-style-type: none"> ・骨材供給の打診が能登方面より富山県側にあり、今後復興資材が何年必要になるか検討もつかないが、当組合としては復興資材を供給すべきであると考えている。富山県内でも震災関連の復興資材が必要な地区があり、骨材の安定供給は業界の債務と考えている。 ・製品製造原価の上昇が激しく、高止まりが続いている状況は経営に重くのしかかっているが、骨材標準価格について、ここ数年連續して値上げしているため客先の影響も考慮したところ、令和7年度は据え置きすることになっている。 ・骨材の需要は、全体的に堅調な状況で推移している。

項目		売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
業種											
鉄鋼・金属	銑鉄鋳物製造業	↖	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・受注状況は、各産業分野どれも低調である。特に小型建機部品が大幅に減産している。 ・先行きに対する不透明感は依然として強い。
	銅・同合金鋳物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	↖	→	↗	→	↘	↘	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	↗	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産実態が安定している。 ・工場の老朽化から、組合員3社が建屋全体の外装を整備している。
	めっき加工業	↖	→	→	→	→	→	→	→	→	・売上高について、取引先からの製品の持ち込みが減少しているため、前年同月比で約10%減少している。 ・売上の減少に伴って、材料にかかる費用が大幅に減少したため、収益状況には大きな変化はない。
一般機器	金属工作機械製造業	↖	→	→	↘	↘	→	↘	→	↘	・受注状況は、前年同月比88.7%となり、大幅な減少ではなく安定してきてはいるが、回復及び増加にはほど遠い状況である。 ・売上が伸びない中、収益確保のために経費削減に取り組み、人員整理等を検討している状況である。
	金属加工機械製造業	↖	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	↖	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・過去にリーマンショックや大震災等により、事業環境が厳しい状況もあったが、いずれも短期間でその影響は終息し、経営を搖るがすまでには至っていないが、コロナ禍と同時に始まった業界の低迷は未だに改善せず、長期に渡りダメージを受け続けている。企業の財務力、営業力、経営力が問われ、体力勝負の様相を呈しつつあり、既に廃業、これから廃業する企業もある。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	↗	↗	→	→	→	→	↗	・原材料価格や輸送費などの値上がりが継続しているため、再度顧客との価格交渉を行っており、数件の顧客は値上げを承認してくれたため、販売価格は上昇している。 ・電子部品市況は、回復の兆しがある。 ・自動車関係は、電動車向けの新製品の引き合いが年度末にかけて集中している。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↖	↗	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・県内だけでなく、首都圏での展示会やPR活動も活発に行われ、秋に向けてイベントが増えることから、今後の需要の増加に期待している。

業種		項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業		↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	・袋セメント出荷数量について、9月も引き続き前年同月を上回り、4年前から続いた数量の減少は解消した感がある。 ・能登半島地震による災害復興関連の出荷も増加に繋がった要因と想定される。 ・建設関連事業については、スポット的増加が都度発生するものと思われ、伸びは横ばいで多くは期待できない。
	非鉄金属製品卸売業		↘	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↘	・原材料価格が高騰しているにもかかわらず価格転嫁が出来ておらず、収益を圧迫している。 ・10月からは最低賃金も引き上げられるため、人件費の高騰がキツイとの声を耳にする。
小売業	鮮魚小売業		↖	→	↘	→	↘	→	→	→	→	・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業		→	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・9月は連休が2回あり、週末は各種商品の販売数が伸びた。卸も連休を中心に動きは良かった。 ・連休後は、安い商品を中心に売れていることもあり、売上はかなり減少している。卸も週末だけ動きがある状況である。
	野菜・果実小売業		↘	→	→	→	→	→	→	→	→	・9月の富山卸売市場は、数量減の単価高で、売上高が前年同月比99%となっている。野菜単価については、4月～9月累計の前年比で121%と高くなっている。 ・青果組合全体の売上高は、前年同月比90%となっている。
	家庭用電気機械器具小売業		→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	自動車小売業		→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
小売業	ガソリンステーション		↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・先月に引き続き、需要の回復感は弱く、また物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少が続いている。 ・販売価格については、燃料油価格激変緩和対策事業の補助上限額や補助率の変更などにより、前年同月比で4円程度低い状況となっている。
	農機具小売業		↗	→	↗	→	→	→	→	↘	↗	・米価が上昇したため、業界は活気が出てきている。
	スポーツ用品小売業		→	→	↗	↘	→	→	→	→	→	・能登地方の豪雨災害の影響を受けている。
	ショッピングセンター		→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・小規模な個人企業は、仕入れ原価などのコストアップや最低賃金の引き上げによって、厳しい状況に追い込まれている。

業種		項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商 店 街	商 店 街	→	→	→	→	→	↘	→	→	→ ↘	→	・9月は連休が2回あったが、天候が良くなく期待した人出にはならなかった。 ・季節の変わり目で売上増加を期待していたが、物価高による買い控え傾向が続いており、期待通りにはいかなかつた。 ・10月より市内路線バスの減便が予定され、高齢者が訪れる機会の減少が懸念される。
	商 店 街	↗	↗	→	→	→	→	→	→	→ →	→	・季節の変わり目のため、物販は好調である。 ・飲食については、昨年同様の動きである。
サ ー ビ ス 業	クリーニング業	→		↗	→	→	→			→ ↗	→	・特になし。
	飲 食 業	↗		↗	→	→	→			→ →	→	・売上は前年同月比で6%増加しており、僅かだが全体的に良かったようである。
	建 築 設 計 業	↗		→	→	→	→			→ →	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→			→ →	→	・9月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年同月比で2ヵ月ぶりのプラスとなつてている。自動車メーカーの認証不正に伴う影響が緩和し、受注残のある人気車種の納期遅れも改善しつつあることからプラスに転じたが、大雨の影響で、伸び率は0.3%と低めとなっている。 ・実質賃金が物価上昇に追い付いていないことから個人消費の弱さが目立っており、新車販売について予断を許さない情勢が続くと予想される。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えており、こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少している。
建 設 業	鉄骨・鉄筋工事業	↘		↘	→	↘	→			→ ↘	→	・大都市中心の大型物件は端境期を迎え、また、地場物件は見積が少なく盛り上がりに欠ける状態が続いている。 ・大手鉄鋼メーカーの10月販売価格の大幅な全面値下げがあり、ゼネコンの指値が今以上に厳しくなることが予想される。
	一般土木建築工事業	→		→	→	→	→			→ →	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→			↘ →	→	・景況に変化はない。 ・4月に続き10月からも資材価格の値上げを各メーカーは打ち出しており、お客様の価格転嫁の賛同に苦慮している。 ・官民連携を進めるために、国はウォーターPPPの導入を推進しており、各自治体は導入に向けて検討を行っている。官公需適格組合との関連も含め、当連合会や各組合がどう関与していくのか不安を抱えている。
	電気工事業	→		↗	→	→	→			→ →	→	・引き続き住宅着工件数は低調であるが、リフォーム・修繕が増加傾向にある。 ・公共工事や設備投資が増加しているため、下期には収益改善が期待される。
運 輸 業	道 路 貨 物 送 業	→		→	→	→	→			→ →	→	・物量は前年同月に比べて減少しているが、高速利用料の荷主負担や運賃改定が進んでいることから、売上の前年同月比は不变で推移している。
	道 路 貨 物 送 業	→		→	→	→	→			→ →	→	・燃料価格について、前年同月比-5.0円/lと値下がりしている。 ・物量は、前年同月比102.0%と好調である。